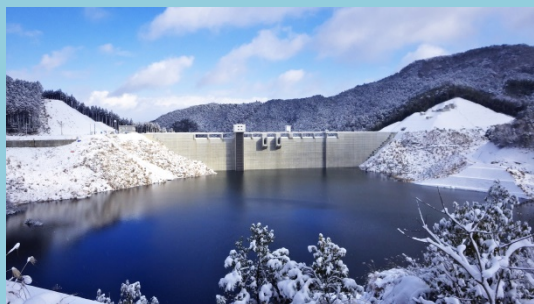




ダムニュース

[法人名] 一般財団法人ダム技術センター
 [郵便番号] 〒110-0008
 [住所] 東京都台東区池之端2-9-7池之端日殖ビル2F
 [電話] 03-5815-4161
 [FAX] 03-5815-4162
 [ウェブサイト] <http://www.jdec.or.jp/>
 [電子メール] damnews@jdec.or.jp

この号の内容

- 1 奥胎内ダム竣工式
—新潟県—
- 2 民視テレビ（台湾）が
“津軽ダム”を番組取材で
訪問！
- 3 “津軽ダム ナイトツアー”
を実施！
- 4 湯田ダム（錦秋湖）を活用した
地域活性化
- 5 「第14回東北ダム技術検討会」
開催
- 6 “初!!真名川・笹生川ダムと
中島発電所見学ツアーを実施”
- 7 Dam news 投稿記事募集
- 8 図書販売



奥胎内ダム(試験湛水中)

奥胎内ダム竣工式

～新潟県～

新潟県胎内市において建設を進めてきた奥胎内ダムの竣工式が、県知事、国会議員、県議会議員、胎内市長、市議会議員、行政関係者、工事関係者及び地域の方々など約130人が出席し、令和元年10月25日にロイヤル胎内パークホテルにて盛大に執り行われました。

奥胎内ダムは、すでに完成している胎内川ダムと連携し、洪水調節、流水の正常な機能の維持、発電、水道用水の供給を目的に、二級河川胎内川に建設した多目的ダムであり、堤高82.0m、堤頂長198.9m、総貯水容量1,000万m³の重力式コンクリートダムです。

事業経過としては、昭和60年に実施計画調査に着手し、平成2年には建設事業が採択されました。以来、工事用道路の工事等が順調に進み、平成14年には本体工事に着手し、平成30年9月より試験湛水を行い、今年4月より運用を開始しています。

式典では、主催者を代表し知事が式辞で、関係者の皆様にこれまでの感謝を述べ、続いて来賓の方々からは、ダム完成による地域の安全、安心を喜ぶ祝辞をいただきました。

奥胎内ダムは、過去に幾度となく下流域を襲った洪水から、住民の安全で安心な暮らしを守るとともに、胎内市及び胎内川流域の発展に貢献するものと期待します。

最後に、これまでご指導をいただきました国土交通省、(国研)土木研究所及び(一財)ダム技術センターなどの関係者並びに現場でダム事業に携わった皆様方に心よりお礼申し上げます。

(新潟県土木部河川整備課)



▲奥胎内ダム



▲花角新潟県知事式辞



▲井畑胎内市長挨拶



▲佐々木国土交通大臣政務官祝辞



▲くす玉開披



▲津軽ダムパークからの紅葉の眺望。
見頃、MAXです！



▲ダム天端からダム湖“津軽白神湖”の眺め。



▲通訳さんを交えて入念に取材の段取りを打ち合わせ中。



▲取材開始です。三浦副所長も真剣な表情です！



▲“寒沢展望台”からの眺望も、しっかりとPRしました！



▲ダム堤体内部も取材しました。
興味津々です！



GOOD DESIGN AWARD
2017年度受賞

民視テレビ(台湾)が“津軽ダム”を番組取材で訪問！ ～インバウンドの波 加速期待！“世界自然遺産白神山地”～

国土交通省が管理する一級河川岩木川水系岩木川の上流部に位置する“津軽ダム”を、令和元年10月26日(土)、民視テレビ(台湾)が番組取材で訪れました。今回の取材は、青森県産リンゴの最大の輸出先である台湾に、県産リンゴのおいしさや品質をより広く発信しようと、青森県りんご対策協議会が誘致したものであり、“世界自然遺産白神山地”周辺の紅葉が時期的にも見頃を迎えていることから、併せて津軽ダムからの眺望も取材し台湾の方々にPRすることを目的に訪れたものです。

取材当日の天候は、降水確率30%の雨の予報でした。朝7時頃の津軽ダムパークは、厚い雲に覆われ、今にも空が泣き出しそうな気配でしたが、取材開始時刻の午前10時頃には、奇跡的に時折晴れ間が見え、日の差す場面もあり驚きを隠せませんでした。

台湾の人気女優・陳美鳳(チェンメイフォン)さんと8名の取材クルー、取材対応は事務所を代表して、三浦技術担当副所長、中田調査課長の2名が担当し、現場は程良い緊張感もありながらも、終始和やかな雰囲気のまま順調に進み、無事11時にはロケが終了しました。

今回の取材映像は、11月下旬～12月上旬に台湾の高視聴率テレビ番組『美鳳有約(美鳳とデート)』で放送され、動画配信サイト“YouTube”でも公開される予定です。令和元年度の“Winter Season”も、インバウンドの波が津軽ダムに押し寄せそうです。

(東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所)



◆陳美鳳(チェンメイフォン)さん(中央)と
7名の取材クルーの方々です！

津軽ダムイメージキャラクター
バックラー君

津軽白神湖
Tsugaru-Shirakami-Lake



GOOD DESIGN AWARD
2017年度受賞



“津軽ダム ナイトツアー”を実施！

国土交通省が管理する一級河川岩木川水系岩木川の上流部に位置する“津軽ダム（青森県中津軽郡西目屋村）”で令和元年10月25日（金）、岩木川ダム統合管理事務所主催“津軽ダム ナイトツアー”を開催しました。

このイベントは、昨年につき2度目の開催で『プレミアムフライデーにプレミアムな夜を』のテーマに合わせ、日の入りが早くなる秋のライトアップ期間のプレミアムフライデーに“津軽ダム”のライトアップとダム見学を同時に楽しんでもらいたいとの思いで企画したものです。

当日は雨の中での見学会となりましたが、ダム堤体内の見学を終えて監査廊の出口扉をあけた参加者は、ライトアップされたダムを見上げ「すごい！」「雨のなかでも綺麗！」などの歓声を上げていました。

雨の中でも残念な素振りを見せずに、見学会を楽しんでいた参加者の方々に感謝の一言に尽きる見学会となりました。

（東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所）

【ツアー行程】

- 17:15 展望所よりライトアップ見学
- 17:25 天端にて津軽ダム概要説明
- 17:40 ダム堤体内監査廊見学
- 17:50 コンジットゲート説明
- 18:05 ダム下流白神が故郷橋パークからライトアップ見学
- 18:20 バスで津軽ダムパークへ
- 18:30 終了



津軽ダムイメージキャラクター
ベッカー君

津軽白神湖
Tsugaru-Shirakami-Lake



▲ナイトツアーの初めに展望所で記念撮影



▲照明が反射する天端で概要説明



▲コンジットゲートの役割などを説明



▲幻想的なライトアップに感動の様子

「湯田ダム(錦秋湖)を活用した地域活性化」

～第5回ジャパン・ツーリズム・アワードに入賞(管理ダムとして全国初受賞)～

湯田ダムビジョン推進協議会(会長 岩手県西和賀町 細井洋行町長)が取り組んでいる「湯田ダム(錦秋湖)を活用した地域活性化」が、2019年度「第5回 ジャパン・ツーリズム・アワード」において、地域部門で入賞しました。

過疎化と高齢化で人口減少が進む地域にあるダムを観光資源として多面的に魅力化し、地域活性化を目的としたインフラツーリズムとして、誘客増加を図った活動が高く評価されたもので、管理ダムとしては全国初の受賞となります。

同協議会では、昭和39年に完成した重力式アーチダム(ダム高さ:89.5m)の湯田ダムを活用した取り組みを展開しており、春は、雪解け時の水位調整のためクレストゲートから放流を行う「錦秋湖スプリング放流」や様々な色でライトアップした「ナイト放流」、夏はダム上流の貯砂ダムを利用した「錦秋湖大滝サマーLIGHTフェスティバル」を開催。さらにSUP(スタンドアップパドルボート)によるダム湖水上散歩や町内連携施設(道の駅他)ではダムカード提示で割引やお得な特典を受けられるなど官民一体となって観光客を呼び込む取り組みを推進しました。

また、アワード入賞を記念し10月21日～11月1日の間で開催した「錦秋湖オータム放流」では、記念のダム撮影フレームを設置しました。この期間中は放流を見学するため約3,900名の方が湯田ダムに訪れ、ダム湖を囲む紅葉と迫力のある放流を楽しみながら、多くの方が記念ダム撮影フレームを利用し大変好評でした。

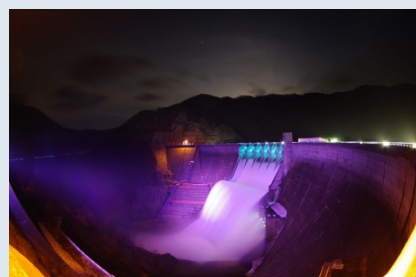
この他にも、ダム湖に架かるJR北上線第二和賀川橋梁周辺からの風景や、春にみられる水没林、冬季に開催される「雪あかりinにしわが」など、四季を通して楽しめる魅力があり、多くの方が訪れるのをお待ちしております。

(東北地方整備局 北上川ダム統管理事務所)

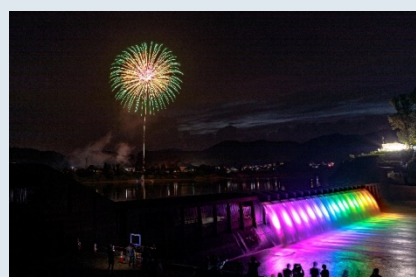
【ジャパン・ツーリズム・アワード】
日本観光振興協会、日本旅行業協会、日本政府観光局で構成する「ツーリズムEXPOジャパン」が主催して、ツーリズムの発展・拡大に貢献した優れた取り組みを表彰するものです。国内外の交流人口拡大やツーリズム業界の価値向上に貢献した事業性のある取組を表彰するビジネス部門と、国・地域の観光関連組織が一体となつての魅力ある観光地域づくりや観光資源を活かした総合的地域活性化に結び付く取組を表彰する地域部門があります。



▲錦秋湖スプリング放流



▲ナイト放流



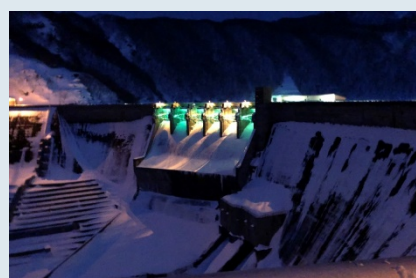
▲錦秋湖大滝サマーLIGHTフェスティバル



▲SUPによるダム湖水上散歩



▲記念ダム撮影フレーム



▲雪あかりinにしわが

「第14回東北ダム技術検討会」開催

～東北地方整備局～

「東北ダム技術検討会」は、ダム事業の円滑かつ効率的な事業執行及び若手職員の技術力向上を図ることを目的に、平成18年度に設立され、本年度で14回目を数えるものです。

本検討会には、国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人土木研究所、東北地方整備局、管内ダム関係事務所の関係者が出席し、東北地方整備局が管轄するダム全般に係る調査・設計・施工・管理に関する様々な技術的課題等について、毎年、意見交換がなされています。

本年は、11月14日（木）～15日（金）に、国土交通省水管理・国土保全局、国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人土木研究所、整備局ダム関係事務所等総勢43名参加のもと、1日目に秋田県湯沢市で検討会を行い、2日目に成瀬ダム（秋田県東成瀬村）の現地研修を行いました。

1日目は、国土技術政策総合研究所佐藤主任研究官より『衛星SARによる貯水池周辺斜面の変動領域の把握』『気候変動等による超過洪水に対するダムのハード対策』の2題について講話を頂きました。気候変動は昨今対策が求められている課題であり、海外のダムにおける事例発表を受け、今後の業務に活かそうと多くの質問が出るなど、活発に討議が交わされていました。

その後、東北管内の事務所からは、各ダムがそれぞれの現場で抱える課題に対しての対応事例や取り組み状況など、3題の議題を発表し討議を行いました。若手職員を中心に多くの質問や活発な意見交換が行われ、建設や管理に携わる技術者が相互に認識を深めるまたとない機会となりました。

○各ダムからの検討議題

- ①津軽ダムにおける水質保全の取り組みについて
- ②成瀬ダム建設工事における確認試験の事例紹介
- ③ダム基礎岩盤におけるエコーチップ硬さ試験を用いた岩盤評価について

『津軽ダムにおける水質保全の取り組みについて』では、洪水後及び渇水時にダム貯水池やダム下流の濁水が長期化する課題に対して、清水バイパスの整備等による対策について発表頂きました。

『成瀬ダム建設工事における確認試験の事例紹介』では、成瀬ダムのダム型式である台形CSGにおける確認試験の項目や実施内容等について発表頂きました。

『ダム基礎岩盤におけるエコーチップ硬さ試験を用いた岩盤評価について』では、鳥海ダムから、劣化が進行しやすいMD層などの追加試験の実施が困難なボーリングコアにおける後年評価の指標として、既往のエコーチップ硬さ試験による評価の適用性を検討した事例を発表頂きました。

2日目は、成瀬ダムにおいて、堤体材料やCSG製造施設及び屋内試験室等普段見ることが出来ない施設を視察し、ダム建設事業への理解を深める一助になったものと考えられます。

本検討会は、若手技術者に対するダム技術継承も目的の一つであり、今後も継続し、課題検討や意見交換を通じて職員の技術力向上を図っていきたいと考えています。

（東北地方整備局 河川部 河川計画課）



▲東北ダム技術検討会の様子



▲活発な質疑応答



▲展望台から全景を視察



▲CSG製造プラントの視察



▲屋内試験室の視察



▲CSG現地試験箇所の視察

“初!!真名川・笹生川ダムと中島発電所見学ツアーを実施”

近年、台風や集中豪雨等で自然災害が多く発生して治水への関心が高まっている中、国土交通省近畿地方整備局九頭竜川ダム統合管理事務所、福井県笹生川・浄土寺川ダム統合管理事務所および北陸電力株式会社が共同で、紅葉の美しい時期である10月26日（土）に真名川・笹生川ダムと中島発電所を巡ることのできる初めての見学ツアーを実施しました。

真名川ダムは昭和54年に管理を開始したアーチ式コンクリートダムです。職員からの説明を聞きながら堤体内を進んでいくと、高さ約60メートルの場所にあるキャットウォークにて迫力満点なホロージェットバルブからの放流が間近で見られ、参加者は「おお～!!」「高ーい!」と歓声をあげていました。また、発電施設やダム直下の噴水部見学路から巨大アーチダムを見上げる景色は素晴らしかったです。

普段立ち入ることのできない中島発電所は昭和32年に運転を開始しました。昭和40年奥越豪雨では建物一階が浸水しました。その時の浸水跡が壁に残っており、参加者はその浸水の深さに驚いていました。発電所内部では大きな発電機を見学し、また外では山の上から降りてくる水圧鉄管の巨大さに驚きカメラに収めていました。

笹生川ダムは昭和32年竣工の重力式コンクリートダムで古い歴史があります。廃村になった旧西谷村の歴史を重ねながら説明していくと参加者からは「すごい」「すばらしい歴史が聞けた」という声が聞けました。堤体内では蹴上が高く勾配も急な階段を「怖い」「たいへん」と言いながら降りていき、堤体外で写真を撮りました。また奥越豪雨時に設計より2倍以上の洪水になった為に建設された余水吐トンネルの見学をしました。

県内外の方々がたくさん参加され、各場所での職員の説明に熱心に耳を傾けていました。そして「こんな素晴らしい見学ツアーはこれからも続けてほしい」という声をいただき嬉しかったです。参加された方々にとっては、紅葉期のダムや普段立ち入ることができない発電所を見学出来て満足した様子でした。

(福井県 奥越土木事務所 笹生川・浄土寺川ダム統合管理事務所)



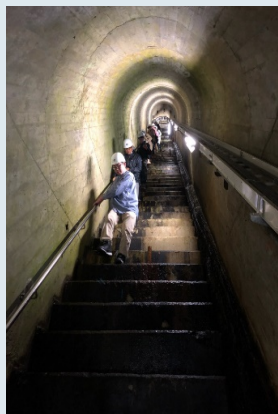
▲真名川ダムのキャットウォークから見学



▲真名川ダムの下から堤体を眺める



▲中島発電所にて巨大な水圧鉄管を見学



▲笹生川ダムの堤体内にある階段



▲笹生川ダム堤体下にて記念撮影



参加者全員集合写真

Dam news 投稿記事募集

『ダムニュース』編集事務局では、下記のようなあらゆる情報・話題を広く募集しております。

内容等につきましては特に問いませんので、下記を参照の上、積極的にご投稿くださいますようお願い申し上げます。

1. イベントの開催通知・報告（水の週間、サマーカーニバル、花火大会、コンサート等）
2. 小学生等によるダム見学会についての報告（絵・感想文等）
3. ダム所在地等における伝統的な行事の紹介（祭り等）
4. ダム事業に関するPR 活動の紹介（パンフレット、ポスター等）
5. ダム周辺の自然紹介
6. ダム周辺の観光レクリエーション活動の紹介（スポーツ大会等）
7. 研究会・講演会・シンポジウムの開催（通知・報告）
8. 水害・地震等報告
9. ダム資料館・交流館等の紹介

なお、ご不明な点及び執筆にあたっての要領等につきましては、下記担当までご連絡ください。

※ダムニュースの配信先変更や配信停止などのご希望がありましたら、ダムニュース編集事務局までご連絡をお願い致します。

〔法人名〕 一般財団法人 ダム技術センター『ダムニュース』 編集事務局

〔郵便番号〕 〒110-0008

〔住所〕 東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F

〔担当者〕 企画部 ダムニュース担当

〔電話〕 03-5815-4161

〔FAX〕 03-5815-4162

〔電子メール〕 damnews@jdec.or.jp

図 書 販 売

1. ダム技術
・月刊誌 A4 判 12 部/年 年度契約（定期購読申込）
平成31年4月号（No. 391）～9月号（No. 396） 1,260円（税別・送料込）
10月号（No. 397）～令和2年3月号（No. 402） 1,273円（"）
2. 多目的ダムの建設 平成17年版（全7巻）
・平成17年6月発行 A4 判 88,200 円（税込・送料別）
3. RCD工法技術の進歩
・平成17年12月発行 A4 判 4,500 円（税込・送料別）
4. ダムの安全管理
・平成18年5月発行 B5 判 2,000 円（税込・送料別）
5. 台形CSG ダム施工・品質管理技術資料
・平成19年9月発行 A4 判 2,000 円（税込・送料別）
6. 地質現象とダム
・平成20年6月発行 A4 判 7,000 円（税込・送料別）
7. 改訂3版 コンクリートダムの細部技術
・平成22年8月発行 A5 判 6,000 円（税込・送料別）
8. ダム工事積算の解説 平成23年版
・平成23年5月発行 A4 判 1,900 円（税込・送料別）
9. 改訂版 巡航RCD工法施工技術資料
・平成24年2月発行 A4 判 2,000 円（税込・送料別）
10. 台形CSG ダム設計・施工・品質管理技術資料
・平成24年6月発行 A4 判 3,000 円（税込・送料別）
11. ダム基礎における立体的岩盤透水性分布の把握手法
・平成25年5月発行 A4 判 5,000 円（税込・送料別）
12. ダム技術Q&Aー総集編ー改訂版 I
・平成27年3月発行 A4判 3,000円（税別・送料別）
13. ダムの地質調査ーボーリング・調査坑・トレンチー
・平成27年3月発行 A4判 6,000円（税込・送料別）
14. ダム工事積算の解説（平成28年度版）
・平成28年5月発行 A4判 2,500円（税込・送料別）

書店では販売をしておりません。

お申込みは、ダム技術センターへ、FAXまたはE-mailをご利用下さい。

申込用紙の形式は定めておりませんが、参考形式が必要な方は、当センターホームページにて、出版物の項目よりPDF形式でダウンロードする事が可能となっております。

[法人名] 一般財団法人 ダム技術センター 図書販売

[郵便番号] 〒110-0008

[住所] 東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F

[担当者] 図書販売担当

[電話] 03-5815-4161

[FAX] 03-5815-4162

[電子メール] books@jdec.or.jp

図書注文書

一般財団法人ダム技術センター図書販売担当宛

FAX (03-5815-4162)

下記のとおり注文します。

No	書籍名	部数
1		
2		
3		

*公/私どちらかに○をお付け下さい。 公→宛名（会社名） 私→宛名（申込者名）となります。		公・（宛名（会社名）） 私・（宛名（申込者名））	
申込者 （ご氏名）	ふりがな		
会社名			
事務所名・ 部署名			
所在地	（〒 - ）		
TEL		FAX	
E-mail			
通信欄			

- ◆ご注文の商品は、3 日～10 日程度でお手元に届きます。
- ◆請求書、納品書、見積書は、商品とは別途郵送にてお届けいたします。（到着日は、商品と1 日程度誤差あり）
- ◆代金お支払いについて、郵便振替時の手数料は当センターが負担いたします。なお、銀行振込でお支払いされる場合には、お手数ですがお振込日・お取扱銀行・請求書番号(請求書右上)・金額を必ず書面(FAX もしくは通知状)にてご通知下さい。
- ◆銀行振込の手数料は、お客様のご負担となります。ご通知がない場合、代金が振り込まれても未払い扱いとなり、後日再請求する可能性があります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
- ◆特定の様式による請求書等をご希望の際は、注文書、指定請求用紙などを同封の上、郵便もしくはFAX、E-mail等にて上記の問い合わせ先にお申し込み下さい。なお、郵便によるご注文の場合、商品到着までに通常より日数がかかりますのでご了承下さい。

[法人名] 一般財団法人 ダム技術センター 図書販売

[郵便番号] 〒110-0008

[住所] 東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F

[担当者] 図書販売担当

[電話] 03-5815-4161

[FAX] 03-5815-4162

[電子メール] books@jdec.or.jp